

## 連載

## ＝褥瘡（じょくそう）④＝

～出来たらどうする？～

三戸呂 克美

「頸髄損傷者がお尻にキズをつくるということはどういうことなのか？」これは今回で最終章となるキーワードである。

車いすユーザーにとって車いすに乗れない事は致命的である。ベッド上での生活になるが、座位姿勢が取れない事は重要な食事を寝た状態ですることになる。

ここで、褥瘡を治す、また褥瘡を作らない3つの要素がある。

### 1. 除圧・2. 栄養・3. 清潔 である。

これを確実に実施することで褥瘡に勝つことができる。いったん出来れば、もちろんこれだけで治るのではなく、時には手術もあり、薬を使用することも必要である。よって一番の治療は作らない事である。これも隠れた要素だ。

私は、3つの要素を次のようにして実施した。（早くキズを治す事を目的とした方法であるが、他にもいろんな方法がある事だけはお伝えしておきたい。）

1. 除圧…ベッド上では座位姿勢は取らない。キズの大きさにより車いすに乗る時間も控える。

2. 栄養…食事は側臥位になって食べる（介助者不在の場合）。特にバランスの良い病院食のようなメニ

ューは重要だ。体重増加はキズを圧迫するので気をつける。

3. 清潔…挫骨部なので便汚染には特に気をつける。入浴時には浴槽につかり血行を良くしてとにかく新しく皮膚が張りだした部分に栄養が行くようにする。

以上を実践したら、見る見るうちにキズが塞ぎはじめた。約3ヶ月でキズの90%は皮膚が出来ていた。

しかし、すんなりと治ってはくれない。ベッド上で寝たきり状態が続いたことから来る廃用症候群である。全身伸び切った体幹をストレッチでほぐすことに時間がかかり大腿部分を曲げる動作、すなわち車いすに乗る姿勢を取れば挫骨が薄皮を突き破るという問題が発生した。皮膚は順調に塞いでくれたが、弾力性に欠けていた。このことが治療を長引かせることになる。

それが、PT、OT、Ns、Dr. の細やかなケアのお陰で完治出来たのは奇跡としか言いようがないほどであった。

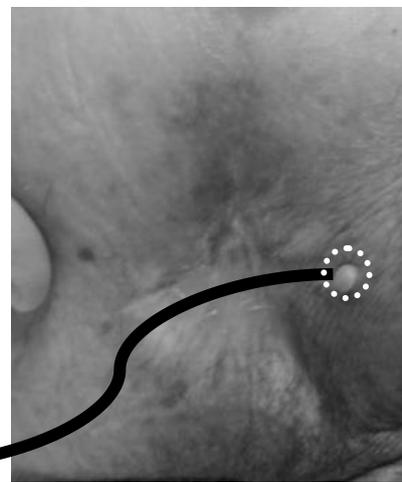
褥瘡の怖さを知った2年間だったが、出来ても治るという言葉を信じて努力した事が報われた。

もう一度言おう、「褥瘡の一番の治療は作らない事である」。



1年半かけて治したキズ。  
もう作りたくないのが正直な気持ちだ。

イボが目印



完